

1 月出荷が可能なカンパニュラ・パーシフォリアの優良系統

[要約]

園芸研究所育成の優良系統ホワイトNo. 5、ブルーNo. 23は、市販種子より個体間差、低温要求量が少なく促成栽培に向いている。市販種子より育苗期間を約2ヶ月以上短縮できる。

農業総合センター園芸研究所

成果区分

普及

1. 背景・ねらい

花き栽培における新品目及び新品種の選定は経営的に極めて重要である。その中で最近注目されている宿根草のひとつであるカンパニュラ・パーシフォリアは、実生繁殖で個体間差が大きく、収量および品質の面でばらつきがしやすい等の問題がある。そこで安定的な生産のために、生態的に優良な系統を育成し作型を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 優良系統は花色が違うホワイト No. 5 (図 1)、ブルーNo. 23 (図 2) である。
- 2) 促成栽培において、優良系統は市販種子より採花株率が高く、個体間差が小さいため、生産性に優れる (図 3)。
- 3) 促成栽培において、優良系統は市販種子に比べ低温要求量が少ないため、市販種子より加温を早く開始でき、出荷時期の前進化が可能である (図 4)。
- 4) 市販種子では幼若性が大きいいため、6 月までに播種して育苗しても安定した促成栽培ができないが、優良系統では 8 月までに播種しても高い採花株率であり、育苗期間の短縮ができる (表 1)。
- 5) 加温栽培では、加温温度によって 1 月中旬から 4 月まで出荷時期の調節ができる (図 5)。
- 6) 粗収益は加温栽培で 275,000 円/a [収量 5500 本=1375 株定植 (利用率: 55%、栽植間隔: 20×20cm) ×4 本収穫/株、単価 50 円と仮定]、無加温栽培で 165,000 円/a (収量: 加温栽培と同じ、単価 30 円と仮定) となる。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 加温開始時期は低温要求量を満たす 11 月以降とする。
- 2) 加温電照栽培など出荷時期が早いものは 6 月播種がよい。
- 3) 加温開始時から電照 (暗期中断 4 時間) を行うと、さらに開花が早まる。
- 4) 採花時に切り口から乳液が出るので、洗い流してから水上げする。
- 5) トルコギキョウやアスターなどの輪作品目となる。トルコギキョウでは抑制栽培の後に加温栽培を、季咲きの後に無加温栽培を導入するとよい。アスターでは季咲きおよび電照抑制栽培の後に導入するとよい。

4. 具体的データ



図1 優良系統ホワイトNo.5



図2 優良系統ブルーNo.23

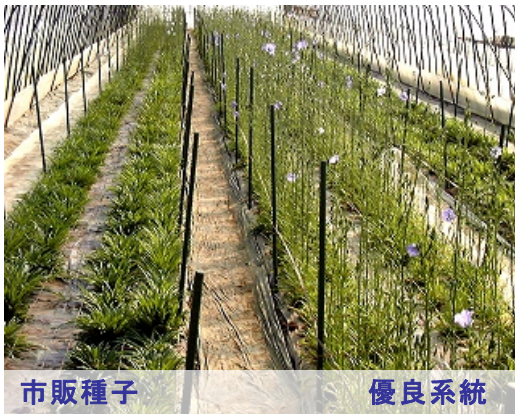


図3 圃場での抽台状況 (3月)

注) 12月加温開始, 最低夜温 8°C, 暗期中断 4時間

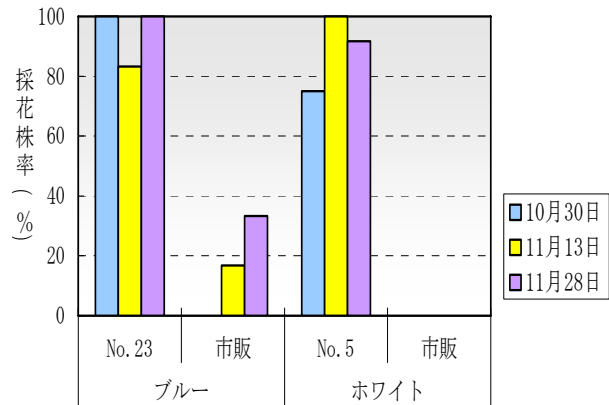


図4 加温開始時期の違いが採花株率に及ぼす影響

注) 最低夜温8°C

表1 播種時期の違いが開花・採花本数に及ぼす影響

		開花日			採花率(%)			採花本数(本/株)		
		6月播種	8月播種	10月播種	6月播種	8月播種	10月播種	6月播種	8月播種	10月播種
優良系統	ホワイトNo.5	4/14	4/15	6/1	79	78	14	3	7	4
	ブルーNo.23	4/5	4/6	6/3	71	71	7	6	8	4
市販種子	ホワイト	未開花	3/30	未開花	0	4	0	0	4	0
	ブルー	4/14	4/7	未開花	7	4	0	1	1	0

注) 12月加温開始, 最低夜温8°C。

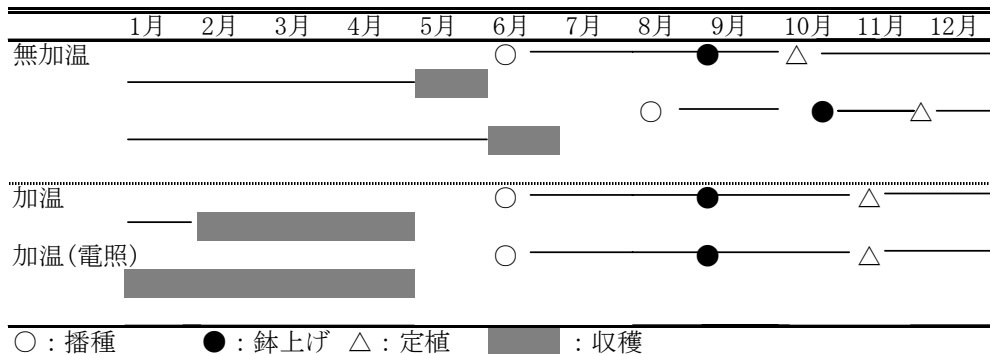


図5 優良系統の導入が期待できる作型

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

新品種育成普及促進事業カンピュラ類の優良系統の選定・平成9~14年度・花き研究室